

る。

7) 口腔癌に対するトモセラピーによる治療経験

○菊地 正浩¹, 小板橋 勉¹, 武田久仁美¹
三科 正見¹, 濱田 智弘², 金 秀樹²

(寿泉堂総合病院・歯科口腔外科¹, 奥羽大・歯・口腔外科)

【緒言】トモセラピーは照射野を限局して重要臓器の障害を最小限に抑えるための手法を用いた強度変調放射線治療 (IMRT) 専用器である。口腔癌は扁平上皮癌が多いため放射線治療が奏効しやすくトモセラピーの良い適応と考える。2011年2月の当院導入時から現在までの当科における実際の照射例について報告する。

【照射例】照射総数は4例 (舌1例, 歯肉3例) で, 診断名は全例扁平上皮癌であった。内訳は術前および術後照射が1例, 術後照射が1例, 術後再発に対する照射が2例であった。全例化学療法を併用し, 通常分割照射にて行った。

【結果】全例で部分寛解 (PR) の結果が得られた。放射線照射による有害事象としては, 口腔粘膜炎, 皮膚炎, 難聴, 食欲不振, 嚥下困難がみられた。全例で治療計画通り照射を行うことができた。

【考察】トモセラピーはIMRT専用器で, 従来の放射線治療器に比較して, 有害事象の出現頻度が低いといわれている。当科での治療経験からも有害事象の出現頻度も低く, さらに出現しても重症度が低く患者に対しても優れた治療器と考えられた。今回は静注および内服による化学療法を併用で良好な結果が得られたが, 選択的・超選択的動注化学療法を併用することによりさらなる治療率の向上が示唆された。

【結語】今回われわれは口腔癌に対してトモセラピーによる治療を経験し, 良好な結果が得られたので報告した。

8) スペシャルオリンピックスに参加してーその1 ボランティア活動の概要ー

○佐々木重夫, 福島 雅啓, 柴原栄一郎, 鈴木 厚子
田口 慎哉, 玉木 直哉, 長嶺 海保, 西村 翼
山崎 康彦, 島村 和宏, 齋藤 高弘, 高橋 和裕
大野 敬

(奥羽大・歯・附属病院)

【緒言】知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックス (以下, SOと略す) では, アスリート (知的障害者) 本人や関係者の健康に対する知識や意識を啓発することによってQOLの向上を目指すためのヘルシー・アスリート®・プログラムとしてスペシャルマイルズ (口腔: 以下, SSと略す), ヘルシーヒアリング (聴力), ヘルスプロモーション (栄養・生活習慣), オープニングアイズ (眼科), フィットフィート (足のケア) およびファンフィットネス (理学療法) の6部門を開設しており, SO参加アスリートは競技期間中, 希望によって受診している。奥羽大学歯学部附属病院ではSOの趣旨に賛同し, アスリートのQOLの向上を目的として平成24年2月10日から12日に開催された2012年第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島大会にボランティアとして歯科医師を派遣した。

【方法】本学から参加した歯科医師は21名 (うち臨床研修歯科医師10名) で, 福島県歯科医師会, 郡山歯科医師会および東北歯科専門学校から参加したボランティアと協力し, 平成24年2月10日, 11日の2日間, 福島県猪苗代町体験交流館「学びいな」においてボランティア活動を行った。SSでの活動内容は受診アスリートの受付, 誘導, 歯科健診, ブラッシング指導およびギフト (歯ブラシ, 歯磨剤などのプレゼント) であった。

【結果】1. 2日間で9歳から46歳 (平均年齢23歳8か月) のアスリート137名 (男性107名, 女性30名) が受診した。

2. ヘルシー・アスリート®・プログラム6部門の受診者の合計は412名で, SSの受診者が最も多く, 33.3%を占めていた。

3. 歯科健診の結果, 1人平均の現在歯数28.4歯, 健全歯数23.2歯, 齲蝕歯数0.6歯, 修復歯数4.7